

News Letter

Vol. 07

2023年6月発行

島根大学

島根県立大学

松江工業高等専門学校

米子工業高等専門学校

女性研究者の活躍促進に関するセミナー

SAN'INダイバーシティ推進ネットワークでは、山陰地域における女性教員増と活躍促進を目指しています。しかし、地方の大学、高専等では女性教員の応募が少ないことから、母校で教員になられた先生と上位職になられた先生に経験談等をお話いただくため、令和5年3月13日(月)に本セミナーを行いました。

共同実施機関所属の5名の女性研究者から、研究内容や、ご自身の経験についてお話しいただきました。研究が好きだから大学院進学を目指された際に家族から反対された経験や、研究職になってから教育の楽しさが分かり働きながら大学院に進まれた先生、或いは専門分野で地元へ貢献したいと考えUターンで教員になられた先生もありました。上位職になられた先生方からは、ご自身の略歴(キャリアパス)と現在の職での研究等について説明いただきました。「上位職になったことで、企業からの共同研究の申し込みが増えたこと、学会本部の仕事が増えたこと、学内業務が増えるなどはあるが、男女とも活躍できる環境にするためには意思決定の場に参加できる上位職になることが必要」、「これまでの(男性)社会が求める「男性的リーダー像」に囚われない、自身が目指すリーダー像が必要」、などのお話がありました。

後半は、パネルディスカッションで「中高生への理系進路選択支援」「学生・院生に研究者等を勧めること」「研究内容について」さらに「上位職になること」について意見交換を行いました。その中で、管理職の立場からは『女性教員に管理職になってほしい』と依頼すると、『自分には難しい・管理職にはなりたくない』と躊躇される方がいるが、その職にならないと分からない事も沢山あるので、機会があれば怖がらずに進んでほしい」と助言がありました。

最後に、女性が大学院に進学することに対して、「性別に関わらず研究が好きであれば博士課程に進んで学位を取るの選択肢の一つであること、研究職にならなくてもよいが現在世の中が女性研究者を求めている状況であることを伝えるのが大切である」とまとめがありました。



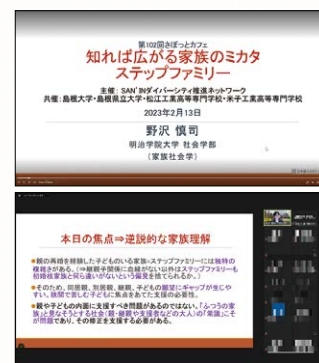
知れば広がる家族のミカタ ステップファミリーを開催しました(さぽっとカフェ)

令和5年2月13日(月)第102回拡大版さぽっとカフェとして「知れば広がる家族のミカタ ステップファミリー」と題し、講師として野沢慎司先生(明治学院大学 社会学部 教授)をお招きしました。当日は、島根大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校、島根県、教育委員会、スクールカウンセラーや臨床心理士、その他県内外から38名が参加しました。

まず「ステップファミリー」の定義とこの語を使う意味、また日本独特の離婚・再婚と子どもに関する制度について丁寧に説明いただきました。日本では離婚すればどちらか一方の親が親権を持ち、一方が親権を喪失し親子の関係を失うことが多いですが、海外では離婚後も共同監護/養育が一般化しており、子どもが親を喪失しない権利を重視され、子ども中心の視点が新しい世界的標準モデルになっていること、それによって子どもへのよい効果が上がっているという話がありました。

また、先生が出演された番組の中で、親の再婚により継父、継母と生活した子ども(ステップファミリー当事者)の困難さの本音を聞くことも出来ました。野沢先生は、日本は離婚をして「ひとり親家族」になったという古い常識から、継親は「ふつうの家族」として親になろうと無理をするが、継親は親ではなく独自の役割がある存在だと認識することで、子どもの抵抗感が減り継親を受容しやすくなり、同居親と別居親は、子どもの共同責任者として協力をしていくことで子どもの利益を守ることができると話をまとめてくださいました。

現代日本では離婚・再婚も多くなりステップファミリーも増えてきた割に、その子どもたちの困難さや、繰り返される悲しい事件等に対する国や周りからの支援が遅れていることを実感した貴重な時間となりました。



進路発見バスツアー

令和5年3月18日(土) 中高生を対象に理系である松江工業高等専門学校(機械工学科)、島根大学出雲キャンパス(看護学科)をバスで訪問しました。また、今回訪問が叶わなかった島根県立大学看護栄養学部(看護学科)については、あらかじめ大学案内の録画動画を見てもらい、集まった質問への回答はファシリテーターから共有させて頂きました。

当日は、教職員から学びや進路先についての話や、実際に学んでいる学生からの説明と座談会も実施され、中高生から活発な質問が飛び交い和気あいあいと交流がなされました。特

に、中高生時の過ごし方、勉強の仕方、大学選びについての質問が多く、今学んでいることはもっと深く広く大学や高専で学べて、将来社会で役立つことを分かりやすく伝えていただきました。

当日の参加者31名(内訳:中学生7名、高校生21名、保護者3名)は、今回の出逢いが今後にも繋がる理系進路発見になったようでした。



SAN'IN ご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワーク、研究アイデアのひらめきのきっかけ、新たな共同研究などを生み出す「場」作りを目的として月に1回程度開催しています。ご縁ネットミーティングでは、「メンバーが自身の研究を中心に話題提供し、参加者でディスカッションする」学びながら交流を深める企画を実施しています。

「分子分光法による生体の非破壊分析-生体があるがまま捉えられるか? -」

【日時】 令和4年12月13日(火) 12:10~13:00
【講師】 石垣 美歌(島根大学戦略的研究推進センター 助教)
【参加人数】 13名

「命があること、命が宿るとは?」という生命の神秘に迫るテーマに、分子分光の立場からアプローチした研究についてお話しいただきました。分子分光法の一つであるラマン分光法は、分子構造を鋭敏に反映したスペクトル情報を非破壊的に取得でき、近赤外分光法は生体分子組成や分子濃度、タンパク質などの生体分子と水分子との相互作用を同時に分析することができます。これらの分光法を用いて、生きたまま生体機能や代謝を評価しようと試みておられます。メダカの胚を用いた研究では、胚発生の活性化をタンパク質や脂質などの物質の違いではなく、水分子の構造の違いとして検出することができたと

のことです。さらに、マウスの卵子を用いた研究では、過熟になると脂質代謝、呼吸活性ともに低下することを見出したとのことでした。この研究はラマン分光分析技術の卵質評価への応用にもつながり、少し先の将来には生殖補助医療への貢献も可能とのことでした。

これらの研究は多くの研究者との共同研究によって進められており、装置自体の開発も研究には不可欠とのことをお聞きし、石垣先生をはじめ多くの方々の丁寧な研究が「生体があるがまま捉える」という挑戦を推し進めていることを改めて実感しました。

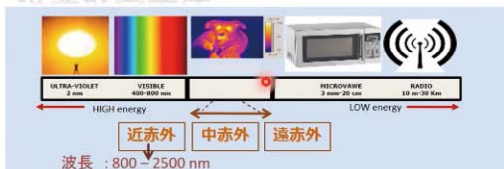
ラマン分光法

サンプルに光を照射

ラマン散乱(入射光と異なる波長)

- 分子振動モードに依存した振動数のシフト
- 分子構造を鋭敏に反映したスペクトル

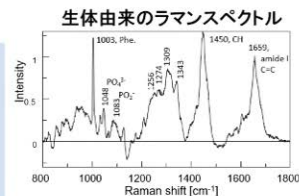
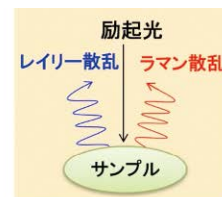
近赤外分光法



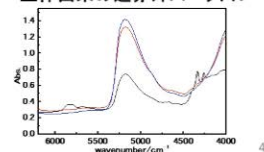
- 分子振動モードに対応した吸収スペクトル
- 水溶液の分析

サンプル内の分子組成、分子構造情報の取得

- ✓ 非破壊、非染色、リアルタイム
- ✓ 生体分析に適す



生体由来のラマンスペクトル



生体由来の近赤外スペクトル

職員キャリアアップセミナー開催

平成5年2月21日(火)に「女性職員のキャリアアップ～男性も女性も生きやすい社会の実現～」と題し、本学監事(非常勤)の栗原昌子氏を講師にお招きしました。内容は、現在おこなわれている社会状況について、法令や我が国における取組、更には本学の女性活躍促進のための事業主行動計画にも触れていただきました。後半は、ご自身の経歴と時代背景に沿って、実際の体験やその折々に感じられたこと、学んだこと等をお話いただきました。また、男性であれ、女性であれ、管理職になったときの課題として、部下との関係構築、俯瞰力や洞察力を磨き本質を見抜く力や先を見る力を養うこと、管理職として預かるユニットのパフォーマンスを高めるために必要な、風通しのよい職場づくりについて、具体的な内容で分かりやすくお話いただきました。当日は、松江キャンパス・出雲キャンパスの会議室と自席でのWeb配信により42人が参加し、キャリア形成について理解を深めることができました。



研究室紹介動画公開

令和3年度末に制作した理系研究室紹介動画が好評だったことから、令和4年度は理系に限らず研究室紹介動画を公開しました。島根大学で学んでいる女子学生から「自分が出会ったこと」「目指すこと」をテーマに研究室の魅力、進路選択、後輩へのメッセージを発信しています。中高生はもちろん、保護者の方、企業の方なども学生がイキイキと活躍する研究室をご覧ください。



<https://diversity.shimane-u.ac.jp/prospectivestudents-parents/>

公開授業「ジェンダー～性を科学する～多様な性と生」

令和4年10月28日(金)島根大学保健管理センターとダイバーシティ推進室が主催し「ジェンダー～性を科学する～多様な性と生」の公開授業を開催しました。当日は保健管理センター河野美江教授より島根大学における取り組みの紹介の後、島根県立大学大学院生から「ジェンダーと自分らしさ」について話していただきました。通常の受講生の他に公開授業の申し込みがあった12名に配信しました。

高校生のための金属工学実験2022 (次世代たたら協創センター)にて裾野拡大

令和4年12月5日(月)～9日(金)の夕方、松江北高等学校、松江南高等学校、松江東高等学校の1・2年生18名が次世代たたら協創センター主催「高校生のための金属工学実験2022」に参加しました。

ダイバーシティ推進室からは参加した高校生に、本学でのダイバーシティについて説明し、ロールモデル集、推し研究室の冊子を配付しました。



SUN'INガールズが企業研究所見学ツアーに参加

令和4年11月3日(木)、JSTグローバルサイエンスキャンパスで実施された企業研究所見学ツアー「特殊鋼の先端基礎研究から応用までを知る工場見学(日立金属安来工場)」に、参加した高校生のサポート学生としてSUN'INガールズが参加しました。

島根大学女性教員メンタープログラム

新任(着任を5年未満)女性教員が、一定の職務経験を持つ教員との交流を通じて大学教員として成長していくことを支援する、島根大学女性教員メンタープログラムを令和3年度から開始しています。令和4年度にはプログラム案内の英語版を作り、益々増えてきている外国人数員にも周知していきます。



研究サポーター制度

育児や介護などによって研究時間の確保が困難な研究者に対して、大学が任用した研究サポーターが研究の補助業務を行う、研究サポーター制度を実施しています。令和4年度は11名(男女不問)の教員が利用しました。



第1回看護管理コンソーシアムしまね講演会

令和4年度の春、研究者版e-ポートフォリオ「ENISHI」から派生し、医療現場の女性リーダー育成に向けた看護管理者版e-ポートフォリオ「ENISHI」が本格始動しました。また、令和4年12月13日（火）には第1回看護管理コンソーシアムしまね講演会を開催しました。講演会では、看護管理に活かすコンピテンシー—成果につながる「看護管理力の開発」の共著者である福島県立医科大学看護学部准教授 佐藤博子先生に「看護管理者のコンピテンシー—さらに、コロナ禍で求められることとは—」をテーマとして講演いただきました。島根県内医療機関11施設の約40名がZoomによるオンラインで参加し、看護管理者コンピテンシーの現場での活用について理解を深めました。



校長と女性教職員の懇談会を開催

令和4年10月27日（木）、校長と女性教職員の懇談会を開催しました。

この懇談会は、より良い職場環境整備のために、校長と女性教職員との懇談会を通じて、女性教職員を取り巻く現状を把握することを目的として、平成26年度から実施しています。

今年度は8名の参加があり、育児・介護にあたる休暇に関する制度や校内の設備環境についてなど、日頃感じていることについて意見交換を行いました。



職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催

令和4年12月1日（木）、本校学生を対象に、職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催しました。この講演会は、「研究職」を志す学生に高専教員という職業に興味を持ってもらい、博士課程への進学を含めたキャリア形成の一助とするために開催したものです。

講演会では、電気情報工学科芦田洋一郎助教から、自身が研究者・教育者を選んだ動機、大学院での学生生活の様子、現在の教育・研究活動等についての講演を、情報工学科渡邊千夏助教からは、「女性研究者・技術者講演会」と題した講演をいただきました。

当日は7名の参加者があり、参加した学生から「採用試験の準備にどのくらいの時間がかかりましたか。」といった質問や、「高専教員の給与等の制度が整っていることに驚きました。」「校

務に関する話が詳細に聞けて良かった。」といった感想が聞かれました。



松江高専男女共同参画研修会を開催

令和5年3月1日（水）、オンラインと対面のハイブリッド形式による男女共同参画研修会を開催しました。

今年度はTERAMOTO社会保険労務士法人 代表社員・Terrastory株式会社 代表取締役CEO寺本健太郎氏を講師にお招きして「ダイバーシティに関する一人一人ができること」をテーマに実施し、66名の参加がありました。

研修会では、ダイバーシティは衛生要因と動機付け要因の両方に影響を与えることや、これまでのメンバーが変わらないクローズドな日本型雇用コミュニティからメンバーの出入りのあるオープンな雇用コミュニティへの変換が求められること、多様性を受け入れるためには寛容性が大事であることなどについて学習し、ダイバーシティに関する理解を深めました。



校長と女性教員の懇談会を開催

令和5年3月30日（木）、校長と女性教員の懇談会を開催しました。懇談会には6名の女性教員と新旧の3主事が参加し、男女共同参画推進室長から男女共同参画社会のイメージと取組みについての講演、続いてフリートークが行われました。参加者からは、託児室の設置、男女共同参画関連の制度の周知、女子学生向けだけでなく男子更衣室などの男子学生向け設備の充実などを求める意見が出るなど、活発に意見交換が行われました。

